

令和5年12月定例会議 一般質問

1番議員 清水 友紀

開成町民が誇りとする、「選ばれる教育」に向けて

開成町にとって教育は一丁目一番地、とは、山神町長が今年5月に町長就任の所信表明にて述べられた言葉である。

しかし数年来の新型コロナウイルスの流行で、数々の地域コミュニティは遮断され、教育現場も例外的な対応を迫られた。当時から子ども達に与えている見えない影響は、今日の過去最多となる不登校児童数などに表れているのではないか。

そうした課題への率先的な取り組みは、英語やICT教育の推進と併せて、本町の教育分野の深みを増し、真に教育の町として誇れるものになると考える。

教育現場や子ども達が学ぶ環境でコロナ対策として施した政策、また子ども達に与えた影響について、改めてしっかりと検証を行うことは、今後の選ばれる教育に向けてステップを踏む以前に必要と考え、以下の質問を行う。

- (1) 本町におけるコロナ前後の不登校児童の状況とその課題は。
- (2) 本町の子ども達が、異文化に生きる子ども達と交流する取り組みは。
- (3) 本町の教育の独自性は何か。